NPO 法人　　第72号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ　　事務局　南アルプス市芦安芦倉 1578
TEL 090-4135-3193　FAX 055-288-2722　HP http://ashiyasu.com　Mail afc3193@nus.ne.jp

芦安ファンクラブ研修旅行報告

2.23-24 竜王峡・大谷観音・大谷資料館・足尾銅山・富弘美術館

杉山　弘卓

２月23日～24日の研修旅行は、初参加４名の方々も加わり15名で栃木・群馬両県に足をのばしました。１日目は群馬県鬼怒川上流にある龍王峡渓谷を４キロ、２時間ほど散策しました。歩き出しは穏やかな日和で散策路の凍結もなく順調でしたが、途中から雲行きが怪しくなり山から強風と一緒に風花が舞い、風防が欲しいような天候に変わってしまいました。バスに予定より早めの迎えを連絡し、鬼怒川温泉へそのままチェックインしました。２日目、午前中は宿を８時に出発し大谷観音・大谷大仏と大谷資料館を巡りました。大谷資料館は前夜に銅線の窃盗に遭い、地下壕の照明が確保できない理由で当初入館を断られるアクシデントがありました。が、その後一部エリアは照明が復旧し開館できる状態になり、アクシデントでガイド案内は中止でしたが、30 分ほど見学が実現しました。その後、日光東照宮の参道近くで昼食を済ませ、バスは栃木県から群馬県の足尾銅山跡に向かいました。ここは坑道跡の一部を観光用に改修しています。長年、足尾で植林事業をしてきた地元のガイドさんから説明を聞き坑内を50分ほど見て歩く事ができました。地元愛をひしひしと感じるガイドさんでした。足尾銅山を後にして、渡良瀬川沿いを下り草木湖のほとりに建つ、星野富弘美術館へ最後に立ち寄り山梨へ無事に戻って来ました。

中島さん鈴木さん伊藤さん西村さん ４ 名の初参加に加え、女性４名の参加で長い車中もホンワカした雰囲気で楽しむことができたように思います。

中島 紫穂

芦安ファンクラブに入会し初めて参加しました。

小学校４年から５年生までの２年間宇都宮に住んでいたことがあり、遠足で大谷石の採掘跡地や足尾銅山へは行った記憶があります。足尾銅山はほとんど変わりない展示で、懐かしく感じました。現地ガイドさんにお話を聞くと、ガイドを依頼される外国人は個人で旅行をするヨーロッパの方が多いと聞き、どうやって銅山の存在を知るのか不思議でした。

東照宮などの有名な観光地には外国人観光客の姿がある様子でしたが、宿泊地の鬼怒川には外国人の姿は無く、代わりに日本人の若者が多く、何故なのか気になりました。今後芦安にもインバウンドの対応が不可欠だと感じているので、他の地域での取り組みなどを知るいい機会になりました。

星野富弘美術館前にて

大滝　要造

今年は石をテーマにした研修旅行。石仏が大好きで、いつもウォーキング途中、伝嗣院の古墳に鎮座する大日如来坐像(愛称おでいにっちゃん)をお参りしてきた私は、とても楽しみにしていました。

初日の龍王峡ハイキングは、エメラルドグリーンに煌く川の流れと、火山岩が侵食されてできた渓谷の美しさに感動しました。２日目の大谷寺では、天然の洞窟の中にすっぽり包まれた寺の姿に驚嘆、弘法大師が岸壁に刻んだと伝わる千手観音の石仏も、見ごたえがありました。また宝物館にあった一万年以上前の縄文時代の人骨に、はるかな人類の歴史を感じました。大谷資料館も、巨大な地下採掘場跡の神秘的な未知なる空間に圧倒されました。

足尾銅山ではトロッコに乗りガイドの案内で坑道へ。坑内では江戸から昭和までの銅山の歴史をリアルな人形の姿や展示場で学習しました。かつて芦安にもドノコヤ峠近くに金銅の鉱山があり、最盛期には２５０人以上の人が働き、小学校の分校までありました。ファンクラブでは設立当初から、鉱山に到る古道復活に取り組み、芦安小学校の子供達を案内し、登山教室等を実施してきました。そんな懐かしい思い出をたどる楽しい研修旅行になりました。

鈴木　一江

♪石山の歌♪

チャッキンコーン　チャッキンコーン
父ちゃん石おこし～
母ちゃんこっぱはき～
兄ちゃん尺角しょってさ～

この労働歌の歌詞を見ると、当時の大谷石の様子が思い浮かび、足尾銅山の話も重なり、なんだか、芦安の炭焼き、林道工事の歴史を思い出しました。
それぞれの場所で、それぞれの土地柄を活かした労働があったのだなと感じる研修でした。
ガイドさんの話を聞き、みなさまとご一緒できたことは、とても貴重でした。ありがとうございました。

石川　剛

朝早く芦安を出たバスに、日の出福生ＩＣを出た所で拾われ、早起きして来た皆さんには申し訳なく思いながらサロン席に落ち着く。
車窓に、思いのほか雪の少ない日光連山、赤薙、女峰山、男体山など以前歩いた山々に迎えられる。車中でお弁当を食べ、気持ちよい風に吹かれて龍王峡散策に出る。濃い青のゆったりした水面に木の葉が模様を描く冬の景色だが、水辺に氷も氷柱も無く小さな湿地にはザゼンソウが顔を出していた。徐々に風が増し６キロの道のりは長く、途中で切り上げホテルへ向かうバスのサロンは盛り上がっていた。
「ホテル御苑」に着き、温泉浴そして楽しい宴会、女性たちはホテルのいきなはからいの浴衣を着て華やいでいた。

バイキング料理の朝食を済ませバスに乗り込み大谷寺へ。資料館見学、平和観音と、石を切り出した空間は銅線が切られた為半分程度の見学だがそれでも充分だった。
足尾銅山に移動し、僅かな距離をトロッコ列車に乗り坑道に入り、ガイドさんの説明を聞きハンマーを振る人形を見て、労働の過酷さを想像し、足尾銅山開発の必要から生まれた物に現在も多くの恩恵を受けている事を知りました。

星野富弘美術館では絵と詩に心あらわれる思いでした。

皇海山に登るため何度も通ったこの道で素敵な物を見せてもらいました。

大谷観音前にて

望月　泰孝

今回の研修旅行は感動する場面が沢山あり、計画した杉山さんご夫妻に感謝と御礼を申し上げます。石の里「大谷」地下採掘場跡は、江戸時代中期から昭和 34 年ころまで手掘りで採掘が行われたという。約２万平方メートルの採掘場は、深さが平均 30m で、最深部は、60mにも及び電気が無い時代に、暗く寒い地下採掘場で硬い石を手堀し裁断、80kg 以上もある石を背負子で運び出したというから驚きであり俄かに信じることが出来ませんでした。

足尾銅山は、江戸時代から昭和 48 年までの間、銅などの鉱石が大量に採掘され日本の近代化を支えたと言われている。

坑道の中には、当時の辛く厳しい鉱石採掘の様子が人形で再現されている。江戸時代には、電気も無く狭く粉塵の飛び交う暗闇の劣悪な環境の中、手作業で働く炭坑夫のことを思うと気が遠くなる思いがした。

星野富弘美術館では、素晴らしい詩と絵の展示を閲覧した。星野富弘さんは、大学を出て中学校の体育教員に就職した年にクラブ活動の指導中に墜落し、頸髄を損傷し手足の自由を失い、９年間の入院後、故郷に戻り、口に筆をくわえて絵と詩を書いている。花などの絵は、繊細かつリアルで詩はすごく優しい感じがした。

絶望的状況から立ち上がり書かれた素晴らしい詩と絵は、生きる勇気と感動を与えてくれた。

伊藤　陽一

今回、初めて参加させて頂きました。日程や行事進行、トラブルへの対応に感心させられました。また！会員の方々の普段見られない面もあり楽しく過ごすことが出来ました、研修場所で自然環境への配慮の状況説明なとどガイドの進め方の勉強などもあり大変良い行事だと、思いました！次も出来たら参加したいですね。幹事さんお疲れ様でした。

渓谷散策

清水　毅

一日目は川治温泉の龍王峡の散策で、晴天と強い風と一部舞雪に迎えられて歩き始めた。

幹事さんから頂いたしおりでは今回のテーマは「石」とか。ここ鬼怒川渓谷の川辺には白い大きな岩や石があちこちに見られる。そのうち下流部白竜峡では流紋岩、続いて青竜峡には、火山灰が堆積してできた緑色凝灰岩、さらに上流の紫竜峡では安山岩と、学校の地学の授業そのままに色々な岩石が次々と現れて楽しませてくれた。

河原にも丸い石がゴロゴロ、気がついたのは石を作ったのは川だと。鬼怒川の水の色は絵の具を溶かしたような深緑色又は青緑色で、周りの岩肌とマッチして思わずうっとり。　源流は日光の奥鬼怒とか。宇都宮、茨城、千葉と流れて利根川に合流して太平洋に注ぐ。水の流れはこころの旅。紅葉の景色もいいだろうね。幹事さんに感謝！

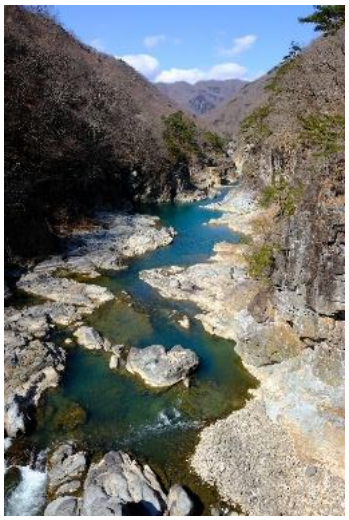
西村　正人

初日に歩いた竜王峡は、時折風と雪が舞いつつも明るい日差しの中、流紋岩・緑色凝灰岩や柱状節理、流水浸食などが織りなす美しい渓谷美を堪能。また滝に架かった小さな虹やザゼンソウも歓迎してくれました。

二日目の大谷資料館・大谷観音と散在する大谷石造りの建物群は、縄文時代から続く石の街の長い歴史と文化を感じました。

次の足尾銅山は、ガイドさんの分かり易い説明によって、日本の近代化の陰に、足尾の街の発展と苦難の歴史が存在したことを知ることができました。そしてガイドさんの、忘れ去られてはならないことを語り継ぐ責任感を強く感じました。

最後の富弘美術館は、静かに心洗われる感動。鬼怒川温泉での和気あいあいの楽しい宴会を含めて、来て良かったと感じた研修旅行でした。有り難うございました。次回をまた楽しみにしています。



鬼怒川渓谷

瀬戸千段の滝冬ツアーに同行して

芦安FC通信編集委 清水 毅

１月２６日（土）午後から芦安ＦＣ主催で、瀬戸千段の滝冬ツアー（＋史跡巡り）が開催され同行した。県内外のゲスト１４人と芦安ＦＣのスタッフ７人程が芦安山岳館に集合し、簡単な説明、注意などの後滝の入り口へ移動した。

多少の雪が残っていたのでチェーンスパイクや藁縄で滑り止めをして歩き始めた。まず現れたのが「三段の滝」で、全面結氷した自然の力強い彫刻に思わず歓声。人工的では無い本物の氷瀑でこの時期でしか見られない貴重な芸術品を堪能した。それから又しばらく足下に注意しながらつづら折りに進んで「千段の滝」展望台に到着。落差３００ｍもあり全体を見渡すのは難しそう。四季それぞれの景色を想像し、芦安地域の景観・財産として大事にしたいと心から思う。去年の夏から秋にかけて１０回近くにわたって、芦安地域の人やＦＣメンバーによって整備された道も、使いながらなお補修を繰り返す必要を感じた。

次に芦安集落に移動して、手始めに大曽利地区から散策した。尚、「曽利」とは「草里」から来た呼び名で、昔この地域で行われていた焼き畑農業の休耕地のことを言っているとか。昔の村人の生活が忍ばれる。又、自動車道路が無い時代に全て徒歩で下の集落へ行き来したことを考えると、隔世の感がある。小中学校の辺りが遠く低く見渡せる。

氷の千段の滝

先に歩いた千段の滝を遠くから一望したりして沓沢集落に着き、沓沢の山の神を拝む。芦安は広大な山を有していて、山で働き生計を維持していた人々にとって、「山に入る人を守護する神」山の神は何物にも代え難い尊い存在であった事だろう。幾つか有る山の神のうちの一カ所である。芦安の山の神は大山祇命（おおやまずみのみこと）であって山の神の本社といわれている。４つの祠と千年栂と呼ばれる大栂に神聖なものを感じた。ここから千頭星山を経由して韮崎の甘利山へとつながる道を考えると、昔、御勅使川左岸の芦倉村が巨摩郡武川筋に含まれていたのも分かる気がする。

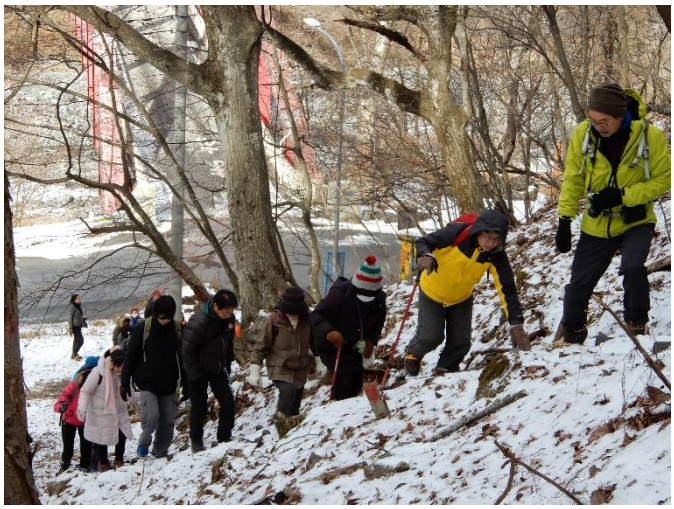
最後に沓沢の道祖神を参った。道祖神は村の入口に有り、通行人を守り悪疫を防ぐ神とされた。小正月には「オホンダレ様」と言って勝の木（ヌルデ）を切ってこれに目鼻をつけ、その下は幾重にも削ってけずり花として飾り、御馳走を備えて喜びを共にしたとか。

地区の集会所で参加者に温かい紅茶と干し柿をふるまったり、下見・トイレの確保・配車・史跡の説明をしたり等々、ＦＣのメンバーに抜かりが無い。

最後に、参加者に沓沢の竹ひごの飾りや遺跡散歩の地図がお土産として配られて解散した。

まだまだ有る芦安地域の史跡や風習・昔の人々の生活や文化に出会い、高い山だけではない芦安の魅力に触れる機会を期待しながら集落をあとにした。

雪の山道スタート



2019年 登山教室のご案内

南アルプスは、ユネスコエコパークの認定を受け、豊かな自然と生活環境を未来に引き継ぐモデル地域として様々な活動を展開しています。

芦安ファンクラブは登山教室を通じ広く安全登山を発信していきます。一緒に山を楽しみましょう。

コース一覧　　募集人員　各コースとも20名　最小催行人員　5名

回数　種類	開催日 / 集合時間 集合場所 / 参加経費	目的地 / コース説明	宿泊 登山口	難易度 特殊な装備	申込 期限
2日コース	6月8日(土)6月9日(日) 集合午前7時00分 19，000円	絶滅したといわれた鳳凰山のライチョウが、近年連続して発見されています。当会のガイドと雷鳥の生息地を訪ねます。	薬師岳小屋 1泊	中級者向き	5月31日 （金）
第49回	どちらも山岳館	**Aコース（薬師岳～観音岳）** **Bコース（薬師岳～観音岳～地蔵岳）**	どちらも夜叉神登山口		
3日コース	6月8日(土)～6月10日（月） 集合午前7時00分 31，000円	上記のコースを3日間かけてゆっくり楽しみます。帰路には辻山への展望オプションコースも加えました。	南御室小屋泊 薬師小屋泊	初、中級者向き	
2日コース	7月10日(水)7月11日(木) 集合午前5時00分 19，000円	百花繚乱　北岳のお花畑にご案内します 北岳　大樺沢右俣コース	北岳肩の小屋 1泊	中級者向き 1,700mの高度差 体力必要	7月5日 （金）
第50回	どちらも山岳館	**北岳　お花畑めぐり**	どちらも広河原	軽アイゼン	
3日コース	7月10日(水)～7月12日(金) 集合午前9時30分 31，000円	百花繚乱　北岳のお花畑にご案内します 北岳　大樺沢右俣コース→草スベリ	白根御池小屋 2泊	初、中級者向き	
栗沢山コース	9月28日(土)9月29日(日) 集合午後1時00分 21,000円	**栗沢山**　甲斐駒ヶ岳が迫ります！ 秀峰甲斐駒ヶ岳の絶景ビューポイント	北沢長衛小屋 1泊	初中級者向き	9月20日 （金）
第51回	どちらも山岳館		どちらも北沢峠		
甲斐駒ヶ岳コース	9月28日(土)9月29日(日) 集合午後1時00分 21,000円	**甲斐駒ヶ岳**　花崗岩と紅葉、黄葉を訪ねて！ 各所で地球の歴史を解説します。	北沢長衛小屋 1泊	中級者向き 体力必要	

■参加経費は、当日受付でお支払いください。参加費には宿泊費・2日目（3日目）昼食代・保険料・乗合ﾀｸｼｰ代金・登山後の温泉入浴料・ガイド料金諸経費を含んでいます。申込後実施要綱をお送りします。
■初日の昼食は、各自でご用意ください。

NPO法人芦安ファンクラブは、南アルプス市芦安山岳館との共催で登山教室を開催しています。登山教室は一人でもグループでも参加を受け付けています。当会の登山教室は実践を通して、安全で楽しい登山をするための技術や知識を学んでいます。多くの皆様のお申込みをお待ちしています。

■申し込み・問い合わせ先

◆芦安山岳館　〒400-0241　山梨県南アルプス市芦安芦倉1570番地
◆Tel　055(288)2125　　Fax　055(288)2162
◆http://ashiyasu.com　　◆メール　afc3193@nus.ne.jp

■申込方法　所定の申込用紙にご記入の上、FAX又はメールでお申込ください。
トラブル回避のため電話での申込は受け付けません。

■登山教室の前後日に芦安温泉施設（一部を除く）の宿泊を希望する場合、申し込み時にご予約された方に限り、宿泊料1割引きサービスを致します。申し込み時に必ずご予約下さい。

■主催　　ＮＰＯ法人芦安ファンクラブ/南アルプス市芦安山岳館

2019年 南アルプス・芦安登山教室申込書

※申し込みは、各人ごとお願いします。

※希望するコースに〇をつけてください。　　※各コースとも定員は**20名**先着順です。

第49回	**2日コース**	6/8（土）～6/9(日)	**鳳凰2山（薬師岳、観音岳）** 残雪の白峰三山がまさに絶景です。
	3日コース	6/8（土）～6/10(月)	
第50回	**2日コース**	7/10(水) ～ 7/11（木）	**北岳**（百花繚乱の お花畑に ご案内します）
	3日コース	7/10(水) ～ 7/12（金）	
第51回	**栗沢 コース**	9/28（土）～9/29(日)	**栗沢山登山**（南ア北部のビューポイント）
	甲斐駒ヶ岳コース		**甲斐駒ヶ岳登山**（花崗岩の秀峰と紅葉）

備考　※グループでお申込の場合は、この欄に、ご同行者様の氏名をご記入ください。

御同行者名　　計　　名

※該当するところに、記入または〇をつけてください

ふ り が な 氏　　名			生年月日	昭和 平成　　年　　月　　日 （ 年齢　　歳）
住　　所	〒			性 別　　男　・　女
電 話 番 号 FAX番号	自　宅	【FAX】		
	携　帯			
	緊急時連絡先	【連絡者氏名】　　【電話番号】		
メールアドレス	パソコン			
	携帯			
体力度（自己判断）	弱い　　やや弱い　　普通　　やや強い　　強い			
健康状態				
山行履歴	◆登山暦　　年			
	◆最近1年間の主な山行暦をご記入ください。（例）富士山　山頂まで　平成24年8月			
その他	◆芦安温泉施設での前泊を希望しますか。　希望する ・ 希望しない　【第　　回】 ◆その他質問等ありましたらご記入ください。			

【注】申込みに際して、次の事項を遵守してください。

1. ガイドの指示に従い、ガイドの示す注意事項を守ってください。
2. 安全のため、コースの変更など予定を変更することがあります。予定変更に従ってください。
3. 健康管理は、自ら責任を持ち、体調を整えて参加してください。

山梨県山岳連盟より感謝状を
山梨県知事より表彰状をいただきました

芦安ファンクラブ会長 清水 准一

会員による日頃の芦安ファンクラブ活動が評価されて重なる栄誉を賜りました。

平成 30 年 12 月 15 日、山梨県山岳連盟創立 70 周年記念式典及び祝賀会が甲府・古名屋ホテルで盛大に開催されました。会には、山梨県知事はじめ多くの来賓の方々と関係者が出席されていました。伝統ある山梨県山岳連盟が長きに渡り山梨県山岳文化の向上及び充実にご尽力されてきたことに改めて感謝と尊敬の念を抱くと共に今後の益々のご発展を期待したいと思います。

厳かに行われた記念式典の中で多くの先輩方や、素晴らしい活躍のもと岳連盟にご尽力されている方々と共に、なんと私共 NPO 法人芦安ファンクラブも一緒に秋山会長から感謝状をいただくことになりました。山岳連盟の方々には芦安山岳観光案内所の運営にひとかたならぬご協力をいたき、また、昨年夏の台風による大樺沢登山道の仮復旧作業時には多くの皆さんにご苦労をおかけしており、むしろこちらから感謝状を差し上げたいと思っているほどです。これを機に今後も山岳地域の自然保護や適性利用に益々精進することの意を強くするところです。

平成 31 年 1 月 31 日、「第８回おもてなしのやまなし県民大会」がベルクラシック甲府で開催されました。その会場で各地の観光関係者や地域ガイドのみなさんと共に柵木(ませぎ)副知事より表彰状と盾をいただきました。 それぞれの受賞者に共通しているのはまず、ボランティアの精神、地域を誇りに大切にしている心、それと「いらっしゃい」のおもてなし魂でしょうか。

受賞者及び団体のそれぞれの活動がスクリーンに紹介され、私共のあまり目立たない活動内容も多くの皆さんに紹介されたことに感謝し、益々おもてなしのソフト面にも磨きをかけていく必要を感じました。

南アルプス市では第 8 回目にして今回が初めての受賞とのことから、その足で金丸市長に受賞の報告に行き、更なるおもてなし事業推進に向けての尽力をお願いし、喜びを共にしていただきました。それぞれの栄誉に恥じることの無いよう会員一同更なる研鑽を積み、地域の活性化、ユネスコエコパーク活動に関わっていきたいと思います。

山岳連盟感謝状受理

知事表彰受理

【連載】私と「山」と⑩

～中国での山登りを振り返ってⅢ～

芦安ファンクラブ 井口功

今回は中国に５回（延 124 日）行った登山の内、３回行った四川省での山登りを振り返ってみた。その３回目です。

奥太娜峰（5210m）

黒水県は理県の北隣にありそこに三奥雪山という山塊がある。そこに奥太基峰（5286m）、奥太美峰（5257m）、奥太娜峰（5210m）等の山がある。そのうちの奥太娜峰に石川県小松の山岳会が登っていてその記録を頂いていたので参考にした。最初は奥太基峰に登ろうと思ったが地元のガイドから、奥太基峰は岩山でとても大変で登れない、奥太娜峰が良いと思うと助言されそこに行くことにした。

2006 年８月 23 日、黒水県城（3200m）から奥の三奥村まで行き、そこから馬で移動し徳石窩村（3300m）に泊まった。24 日、村を９時に出発、我々５名、雪豹（トレッキング会社）３名、ポーター 12 名、現地ガイド１名、馬 10 頭で、我々は馬に乗って移動した。広い草原に 14 時に着くとそこがＢＣ設営地（3900m）とのことであった。あいにく雨が降り出し、その中でテントを設営した。ここまで来る途中一緒に来た犬が“雪豚”というアナグマのような動物を追いかけ首に食らい付き、それをポーターがこん棒で殴って殺す狩りの様子が見られた。雪豚は皮をはがされ、肉はその夜にポーター達の胃袋に納まった。夜半に雨は激しくなり心配した。

ベースキャンプにて

25 日、朝になっても雨がやまず、今日の登山は中止かなどガイドと相談していたらやんで、８時 10 分に出発できた。はじめ沢状のところを登りコルに上がった。そこは森林限界より上になった。そこから砂礫の稜線を進み、頂上直下の岩場を登り 11 時 15 分に山頂に着いた。

山頂にはチベットの旗が沢山たなびいていた。雪隆包山の登山で順応していたのでここでは全員高度障害がなかった。私の高度計は 5000mを切っていたが中国で買ったガイドブックによるとこの山の高度は 5210mとなっていたし 5000m級の登山料を払っているので 5210mとした。

ＢＣには 14 時に無事帰ってきた。

26 日、ＢＣを整理し８時 30 分に出発、歩きで下山した。一日中天気が良く 23 日～25 日に見えなかった周囲の山々が綺麗に見えた。徳石窩村に 13 時に着き昼食を取った。車の駐車してある三奥村に 15 時 20 分に着きすぐに乗車し黒水県城に 16 時 30 分に着きホテルに泊まった。

山頂

奥太娜峰（5210m）

二姑娘山（５４５４m）

８月27日、黒水県城を８時30分に出発、いたる所で道路工事をしていて渋滞して時間が掛かったが、11 寺 50 分に茂県に入り 213 号線になると道路が良くなった。文川県に入り料金所を 13 時に通り過ぎそのまま南下して、映秀鎮から 213 号を離れ山への道になるととたんに悪路となった。途中 16 時 30 分に大熊猫苑に立ち寄り、パンダを見て、17 時 40 分ホテルに着いた。

28 日、8 時 30 分に出発、今日は小金県の日隆（リーロン）までだが 4515mの巴朗山（ハーロンシャン）峠を越えなければならず、しかも悪路のため結構大変だ。登り一方の峠道に車がオーバーヒートし 3830mの所で車を休ませて峠を越えた。四姑娘山の展望台に 13 時に着き、スッキリとした四姑娘山山塊の眺めに満足した。日隆には 13 時 30 分に着いた。ここで馬やポーターを手配し 14 時 50 分に馬に乗って山に向った。馬 10 頭、ポーター6 人、ガイド２人、馬方２人とであった。仏塔の立つ台地や潅木帯を過ぎ、大姑娘山への道を左に分け 18 時 40 分にベースキャンプ地（4345m）に着いた。ＢＣを設営している間に馬５頭と何人かが下っていった。

ベースキャンプにて

29 日、ＢＣを８時 10 分に出発、カールを目指して登った。すでに森林限界を超えていたので
砂礫だけのゴツゴツした味気ないルートであった。11 時 10 分に 5085mのコルに達した。そこから先の稜線は左右が切れ落ちていて高度感あふれるルートでロープを使って慎重に登った。

約 1 時間で待望の山頂に着いたが 4 人で立つのが精一杯の狭い頂上であった。セルフビレーを取って、写真を撮ったりしたが、周りの四姑娘山山塊の山々が眺められその素晴らしい眺望に満足した。コルまでは気の抜けない下りで慎重に行動し、コルでロープを外し、ＢＣには 14 時 40 分に帰った。

山頂にて

30 日、ＢＣを整理し、8 時 15 分に出発、馬５頭に装備を載せて、我々は歩いて下り、登山口に 13 時に着いた。賃金などの支払いや昼食など済ませ、14 時に車で巴朗山峠を越え 17 時 40 分にホテルに到着した。

31 日、8 時 15 分出発したが 213 号線に出るまで悪路の連続で、成都に 14 時 30 分に着いた。

９月１日、昨年も行った“三星跡”という史跡に行った。後は成都で買い物などして過ごした。

２日、成都⇒北京⇒成田⇒山梨

二姑娘山（５４５４m）

今回の登山での中国での費用の概算

登山許可費　三山 711 元　山林保全費 200 元
宿泊費 890 元　食費 1680 元
馬やポーターなどの経費、入園料、交通費など、一人 2191 元(約 30,000 円)を雪豹に支払った。

南アルプスユネスコエコパーク講演会を聞いて

芦安ファンクラブ　西村　正人

２月２日、韮崎市民交流センターニコリにて、ほぼ満席の約５０人の参加者が集まって開催され、芦安ファンクラブの清水准一会長が講演されました。

清水会長は地元芦安の生まれ。就職のため一時県外に出た時に故郷の素晴らしい自然と貴重な文化を再認識し、登山や北岳山荘勤務などの経験から、南アルプスの自然保護と適正利用のため芦安ファンクラブの設立に参加。今年で２０周年となるその活動を中心となって進められてきました。

行政とも協力して、地図の作成、北岳山頂三角点改埋、希少高山植物等保護施設整備工事、高山植物ポケットブック発刊、登山ガイド組織設立、安全登山のための登山教室、登山道整備、景勝地の再整備、自然保護に関する調査研究協力、小中学校の自然教育活動等とともに、広河原山荘・白根御池小屋・長衛小屋の指定管理、広河原インフォメーションや芦安山岳観光案内所の委託業務等々、多岐にわたる活動を行っています。

南アルプス山脈は今も年４mmの隆起を続け、氷河と風雪による独特の地形地質を見ることができます。またキタダケソウなどの貴重な高山植物だけでなく、標高３，０００mの厳しい環境は動植物の生き残りのための工夫や戦略を感じることができます。

設立当初からの活動について初めて聞く内容も多く、また清水会長の南アルプスの自然と芦安の歴史文化への深い愛情を感じた９０分でした。

講演会の様子

芦安ファンクラブ 20 周年記念式典開催

本クラブは、2 月 11 日に創立 20 周年を迎えました。これもひとえに皆様方の変わらぬご支援ご鞭撻の賜物と、深く感謝申し上げます。

日頃のご芳情に対して、お礼のご挨拶を申し上げたく、記念式典を催したいと思います。

会員、賛助会員には、案内状を郵便もしくはメールにて案内をしたところです。

□式　典【日　時】　2019 年 5 月 5 日（日）13：30-14：30
　　【場　所】　桃源文化会館　桃花の間
　　【参加者】　来賓各位・ファンクラブ正会員・賛助会員・山小屋関係者
□祝賀会【時　間】　式典後：14：30-16：30
　　【場　所】　桃源文化会館　桃花の間
□記念登山【日　時】　2019 年 5 月 6 日（月）　9:00～
　　【場　所】　夜叉神峠

参加者の皆様には、記念誌、記念巾着をお渡しいたします。

当日は、記念Ｔシャツの販売も行います。